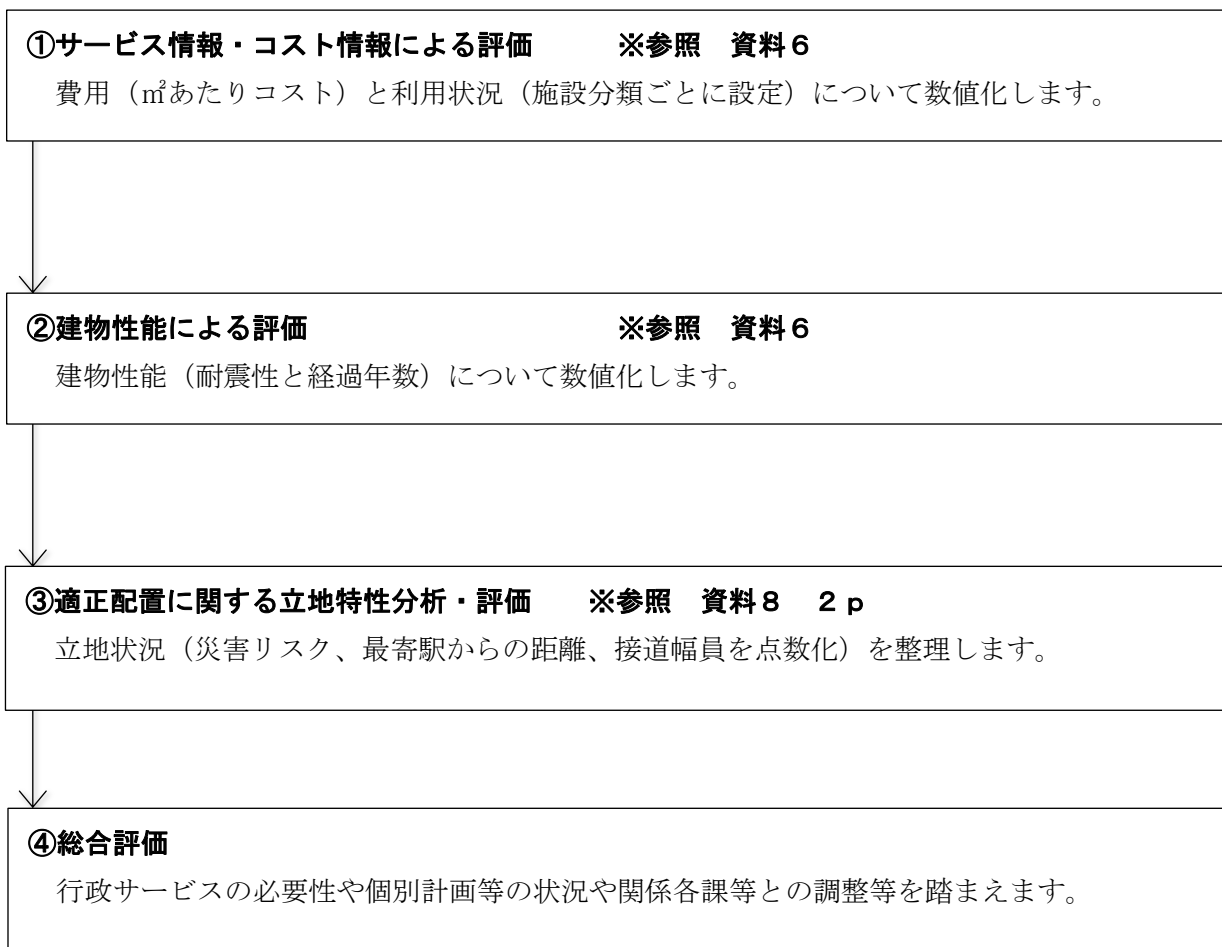


公共施設の再配置を検討していくに当たっては、対象とする施設について、客観的な指標を用いて、現状を評価し、今後の方向性を検討していく必要があります。

また、評価手法を設定するに当たっては、市民・庁内における理解のしやすさを重視した仕組みを設定していく必要があります。

1. 再配置評価の主な流れ

対象施設について、以下の評価を実施し、施設の今後のあり方に関する方向性について整理します。



2. 適正配置に関する立地特性分析・評価

- 現状の公共施設の配置状況（立地特性）を把握し、再編の方向性を検討する参考資料とします。
- 公共施設の全体像をわかりやすく視覚的に把握できるようにするため、用途、規模、築年数などの情報を地域別に整理した「地域実態マップ」を作成します。

1) 立地特性分析

公共施設の再編の方向性は、施設の立地状況等を踏まえ検討できるようにするため、以下の項目について分析し、公共施設評価へ反映します。

①地域特性の整理

地域区分ごとに以下の項目を整理

- ・地域の概況
- ・人口、年齢3区分別人口（現時点、将来）
- ・施設数、規模

- ・人口規模に対する施設数・規模に、大きな偏りがある場合は是正する方向で再編の方向性を検討
- ・年齢構成や地域特性を踏まえ、施設の廃止や統合等の再編の方向性を検討

②公共施設周辺（誘致圏）の人口動向

公共施設周辺の人口の集積状況を把握

- ・人口集中地区（DID）内にある施設を把握

- ・公共施設が DID 内にある施設は、使用継続や利活用を図る施設として、再編の方向性を検討
- ※DID は生活サービス機能の持続的な確保が可能な人口密度水準を満たす区域として参考となる指標

③公共交通（鉄道駅・バス停）からの近接性

鉄道駅、バス停周辺に立地する施設を把握

- ・鉄道駅から半径 1km、バス停から 300m 圏に立地する施設を把握

※1km,300m は徒歩利用圏（鉄道駅,バス停）の基準

- ・鉄道駅、バス停周辺に立地する施設は、使用継続や利活用を図る施設として、再編の方向性を検討

④類似施設の機能重複状況

類似施設が近接し機能が重複する施設を把握

- ・施設から半径 300m 圏に含まれる同じ施設タイプの施設を抽出し、機能の重複状況を把握

※300m は徒歩利用圏（バス停）の基準

- ・互いに近接し機能が重複する施設や、災害リスクが高い施設は、必要に応じて、用途転用、廃止等、再編の方向性を検討

⑤災害リスク

浸水想定区域、および土砂災害危険箇所等に立地する施設を把握（柏原市総合防災マップ等を活用）

- ・上記の区域に含まれる災害リスクが高い施設を把握

※施設の徒歩利用圏等の基準・指標は、国の指針・マニュアル等を参考に設定します。

2) 地域実態マップの作成

公共施設の再配置を検討する上での参考となるよう、市内の公共施設が施設類型別に、どの地域に、どの程度の規模で立地しているかが一目でわかる「地域実態マップ」を作成します。

図 地域実態マップの作成イメージ

